

# 病虫害発生予察注意報 第 1 号

病虫害名 イネいもち病

1 発生予想 イネいもち病が多発する恐れがある。

2 対象地域 県下全域(特に常習発生地、中山間地域)

3 根拠

- (1) 本年は常習発生地において、7月第2半旬～第3半旬にかけて葉いもちの発生が確認された。平年よりもやや遅い発生であったが、7月第6半旬にかけて、病勢が急速に進展するほ場が見られている(表1、2)。
- (2) A Me D A S データを用いた葉いもち発生予測モデル BLASTAM 及び BLASTAM-NAGANO によると、7月18日及び7月25日以降、県下で広く葉いもち感染好適条件が出現している(表3)。また、各地に設置したイネいもち病発生予察支援装置でも同様の傾向が得られている。
- (3) BLASTAM-NAGANO による葉いもちの進展予測では7月25日以降、発生面積の急増が予想され(図1)、現在少発生の地域でも今後発生が拡大する恐れがある。また、この時期の感染は穂いもちの感染源となる上位葉感染につながる可能性が高い。
- (4) 気象庁発表による向こう1ヶ月の予報では、平均気温は低い確率が50%、降水量は平年並または多い確率とともに40%、日照時間は少ない確率が50%で、発病に好適な条件がしばらく続く予想される。

4 防除対策と留意点について

- (1) 水田の見回りを実施し、葉いもちの発生の多いほ場では、直ちに防除を行う。また、穂いもちを対象に液剤や粉剤を穂ばらみ期と出穂期に2回散布する。出穂期前後に曇雨天が続く場合には、さらに出穂5日後と10日後に追加散布を行う。中・晩生種で出穂期まで期間のある場合は粒剤でもよい。
- (2) 防除薬剤は長野県農作物病虫害・雑草防除基準に基づいて選定する。降雨が続き、液剤が散布できない場合は、粉剤または粒剤を状況に応じ使い分け、適期防除を心がける。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (3) 抵抗性の弱い品種(コシヒカリ、キヌヒカリ等)、多肥ほ場、上位葉に病斑が見られる場合には防除を徹底する。
- (4) 農薬散布にあたっては、周辺作物等への飛散防止に十分注意する。また、殺虫剤との混合剤を使用する場合にはミツバチに対する危被害に留意する。
- (5) 発生には地域差が見られるため、今後の発生予察情報及び気象情報に注意する。

表1 東北信地方の常習発生地ほ場における葉いもちの進展

調査地点	調査月日	発病株率	調査地点	調査月日	発病株率
佐久市布施	7月16日	0%	小川村夏和	7月16日	0.2%
	7月28日	58.0%		7月24日	28.0%
佐久穂町海瀬	7月16日	0.2%	信濃町富士里	7月14日	0%
	7月28日	54.0%		7月27日	22.0%
立科町芦田	7月16日	0%	中野市延徳	7月14日	0%
	7月28日	34.0%		7月27日	84.0%
上田市室賀	7月16日	1.2%	飯山市旭	7月14日	0%
	7月24日	68.0%		7月27日	88.0%
上田市傍陽	7月16日	0.2%	木島平村小見	7月14日	0.3%
	7月24日	20.0%		7月27日	92.0%

注)7月14日～16日は1000株調査、7月24日～28日は50株調査。

表2 中农信地方のほ場における葉いもちの発生状況

調査地点	調査月日	発病株率	調査地点	調査月日	発病株率
茅野市米沢	7月24日	42.0%	上松町吉野	7月22日	10.0%
飯田市上郷	7月22日	44.0%	麻績村和合	7月24日	80.0%
阿南町富草	7月22日	94.0%	白馬村神城	7月27日	56.0%

注)各50株調査。

表3 BLASTAM 及びBLASTAM-NAGANO による AMeDAS データを用いた葉いもち感染好適条件の判定結果 (平成21年)

地 点 月 日	野 沢 温 泉	信 濃 山 野	飯 山 野 新 町	長 州 新 町	信 州 馬 馬	白 馬 町	大 町	穂 高 本	松 本 川	奈 川 平	木 曾 沢	木 曾 福 島	南 木 曾 田	開 田	上 田	東 御	軽 井 沢	立 科	佐 久	諏 訪	高 遠	辰 野	原 村	飯 島	飯 田	浪 合	南 信 濃	
	7.11																											
12																												
13																												
14																												
15																												
16																												
17																												
18																												
19																												
20																												
21																												
22																												
23																												
24																												
25																												
26																												
27																												
28																												
29																												

：好適条件      ：準好適条件（好適条件にやや満たないもの）      ：準好適条件の内、濡れ時間の平均気温または前5日の平均気温が18以下  
 表中の地点名はAMeDAS観測所の所在地

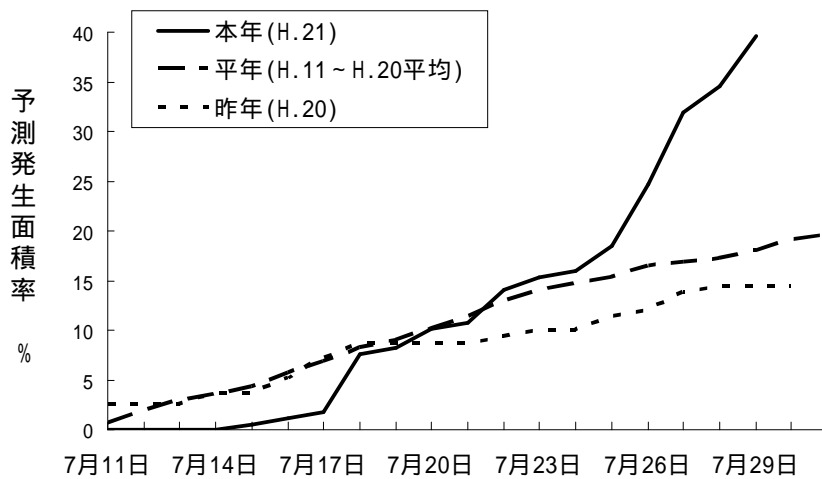


図1 BLASTAM-NAGANO による葉いもち進展予測

<葉いもち発生予測モデルBLASTAM 及びBLASTAM-NAGANO について>

いもち病（カビにより引き起こされるイネの最も重要な病害）の発生を予測するため、AMeDAS（アメダス）データをもとに、温度、葉のぬれ時間等から感染に好適かどうか判断するコンピューターを使ったシステム。いもち病の感染には、気温と葉のぬれ時間の長さが関係する。好適条件とは10時間以上のぬれ時間と、ぬれている間の平均気温が必要温度を満たし（15～25 でぬれ時間により異なる）、かつ、前5日間の平均気温が20～25 の場合である。準好適条件とは、ぬれ時間の不足や平均気温の過不足など、好適条件にやや満たない場合のこと。

長野県病害虫防除所  
 担当：赤沼礼一（所長）、福本匡志（担当）  
 TEL：026-248-6471（直通）  
 FAX：026-248-6473  
 電子メール bojo@pref.nagano.jp